

# ネギ 今後の病害虫防除について

令和6年1月  
JA山武郡市営農部

今シーズンは暖冬傾向が続いており、この先1ヶ月も気温は高くなる予報です。また、生育の遅れから施肥回数が多くなっている圃場では、今後葉の病害が多発する恐れがあります。管内でも既に“さび病”の病斑が確認されました。春先に後悔しないため、収穫の合間で今防除を行っておきましょう。



## 【さび病】

例年4～5月に多発します。

潜伏期間が2週間と長いため、**病斑が確認された場合、既に畑全体が感染**している可能性がありますので、**治療効果のある薬剤を散布**しましょう。

肥料の効き過ぎも発生を助長させます。



## 【べと病】

3月以降気温上昇に伴い多発します。また、降雨・濃霧が続く場合は要注意。現状は予防剤でも可。**2月下旬以降は治療効果もある薬剤**を選びましょう。

## ネギべと病、さび病に登録のある主な殺菌剤

べと病	さび病	薬剤名	効果	希釈倍率	使用時期	総使用回数
	●	カナメフロアブル	予防・治療	4000～8000倍	収穫前日迄	4回以内
	●	アフェットフロアブル	予防・治療	2000倍	収穫前日迄	2回以内
	●	パレード20フロアブル	予防・治療	2000倍	収穫前日迄	3回以内
●	●	メジャーフロアブル	予防・治療	2000倍	収穫前日迄	3回以内
●	●	アミスター20フロアブル	予防・治療	2000倍	収穫3日前迄	4回以内
●		レーバスフロアブル	予防	2000倍	収穫7日前迄	2回以内
●		ランマンフロアブル	予防	2000倍	収穫3日前迄	4回以内
●		オロンディスウルトラSC	予防・治療	2000倍	収穫7日前迄	2回以内

※農薬の使用にあたっては、ラベルをよく確認し、希釈倍数、使用時期、総使用回数に十分注意して下さい。